

群 教 七	G01 - 03
	平23.243集

# 構成や展開をとらえて読む力を高める 説明的な文章指導の工夫

— 資料を比較・関連させながら自作テキストを作成する活動を通して —

長期研修員 塩野谷 喜生

## 《研究の概要》

本研究は、説明的な文章を読むことの指導において、文章を分解した資料と文章以外の表現形式をもった資料とを使用し、それらを比較・関連させながら自作テキストを作成する活動を通して、構成や展開をとらえて読む力を高めることを目指したものである。

自分なりに構成を考えた自作テキストについて、文章の順序を決めた理由や写真・絵図などを使用した意図を明確にして、説明し合う活動を行った。

**キーワード** 【国語—中 読むこと 説明的な文章 構成・展開 比較・関連 テキスト】

## I 主題設定の理由

今回の学習指導要領では、「生きる力をはぐくむ」という基本理念は変わらず、継続して「確かな学力」の形成に努めることが示された。全体を通して強調されていることは「言語活動の充実」である。これは、我が国の児童生徒は「思考力・判断力・表現力を問う記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題が見られる」というPISA調査など各種の調査結果を受けたものであり、特に「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむことを重視しているのが特徴である。それを受けて、平成23年度群馬県学校教育の指針（国語）では、「論理的な述べ方や考えを引き出す質問の仕方、考えを深める交流など、ねらいを明確にして児童生徒が意欲的に取り組む言語活動を単元に位置付け、言葉で伝え合う力を高める授業を行う」ことを求めている。

言語の能力はすべての教育活動を通して育成されるものであるが、言語の教育としての立場を重視する国語科の果たすべき役割は大きい。とりわけ、生徒が多様な言語に出会い、その言語を獲得していく場となる「C 読むこと」領域の学習は、全教科の学力に影響してくる。各教科等の言語活動として「記録」「報告」「説明」「記述」「討論・討議」など、様々な活動が想定されるが、これらを支える力こそ、「C 読むこと」の学習の中で身に付ける読解力そのものである。国語科に今求められているのは、論理的に思考し表現するための読解力の育成であり、身に付けた知識・技能を、自らの課題解決のために活用する能力の育成である。

協力校における生徒たちは、文章を読み進める際に、一つ一つの文を意識しながら語句の読み方や意味を調べ、叙述に即して内容を理解しようとする傾向が強く、文章全体の大きな流れやまとまりを意識しながら読むことは少ない。そのため、文の構造について理解したり、文章構成や表現の特徴に着目して筆者のものの見方や考え方を読み取ることに課題が見られ、読み取った内容を根拠を基に論理的に説明することも不得意の傾向にある。

このような状況を改善するためには、文章全体を概観して構成や展開を考えながら要旨をとらえ、その文章について、自分なりの考えがもてるような学習活動を展開していく必要がある。それには、論理的な文章構成をもった説明的な文章を読む学習が適している。説明的な文章を読み進める過程において、文章とそれに関係する資料とを比較・関連させながら自作テキストを作成する活動を取り入れることで、つながりやまとまりを意識しながら文章を読んで適切な表現について考えることができる。また、写真や絵図などの資料と文章との関連を考えることで、表現の意図をより明確に理解することができ、文章の構成や論理の展開をとらえて読む力が高まるのではないかと考えた。

以上のような理由から、本研究では、説明的な文章を読むことの学習に視点を当て、文章とそれに関係する資料とを比較・関連させながら自作テキストを作成する活動を通して、構成や展開をとらえて読む力を高めようと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

「読むこと」の学習において、文章の構成や展開をとらえて読む力を高めるために、文章とそれに関係する資料とを比較・関連させながら自作テキストを作成する活動を取り入れたことの有効性を明らかにする。

## III 研究の見通し

- 1 「つかむ」過程において、文章から取り出した情報と、写真・絵図などの資料から取り出した情報とを関連させて考えることで、自作テキストの基になる筆者の考えをとらえることができるであろう。
- 2 「追究する」過程において、文章と文章、文章と写真・絵図などの資料を比較・関連させながら自作テキストの構成を考え、意見交流することで、構成や展開に関する理解が深まるであろう。
- 3 「まとめる」過程において、構成を考え、意見交流したことを基に自作テキストを作成し、作成意図を説明し合うことで、構成や展開をとらえて読む力が高まるであろう。

## IV 研究の内容

### 1 「構成や展開をとらえて読む力」について

読む力を構成しているものは、「情報の取り出し」「情報の解釈」「情報の評価・表現」ととらえられる（図1）。たくさんの情報の中から必要な情報を適切に取り出し、様々な角度から解釈し、自分なりに評価したものを根拠を明確にして表現する。このような力を総合的に引き上げることによって読む力は高まると考える。

構成や展開をとらえるとは、文章の構成や書き手の論理の展開を理解することである。つまり、文章構成の形式を見分け、それを基に内容をとらえたり、書き手が用いた説明の方法や説得の工夫を理解することで文章のまとまりや文章全体の内容をつかんだりすることである。このような力が身に付けば、表現の細部に注意して読み取るだけではつかめなかった文章の全体像をつかむことができ、文章の要旨がとらえられるようになると思う。

まず、資料から情報を取り出して自分なりの考えをもち、読み進める中で文章の構成や筆者の論理の展開に着目することで内容を理解し、理解した内容を根拠を明確にして表現することで、構成や展開をとらえて読む力が高まると考える。

### 2 「資料」と「比較・関連」について

ここで言う資料とは、様々な形式や表現形態のものを含んでおり、教科書掲載の文章・それ以外の文章・新聞・広告・パンフレット・ポスター等の教材全般を指し、物語、解説、記述、議論・説得、指示、文書、記録など、いわゆる文章に相当するものや、図、グラフ、表、地図、映像、写真など、データを視覚的に表現したものとする。

比較・関連とは、複数の資料を比べたり結び付けたりして、共通点や類似点、相違点や構成・順序などについて考えることである。そのための方法としては、同じテーマで違う主張をもった文章や、同じ筆者が書いた別の文章を読み比べて違いをとらえたり、文章の並べ替えや書き換えを行って効果を比べたり、図表や写真など、資料の用い方の違いを比べるなど、様々な方法が考えられる。これら

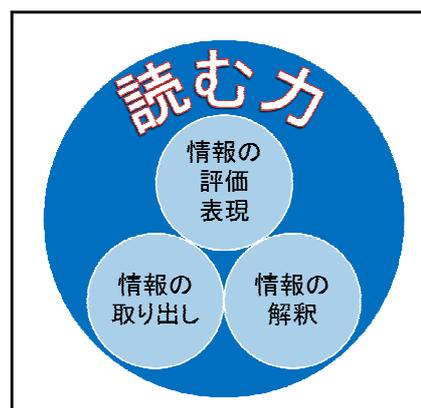


図1 読む力を構成するもの

の活動を通して、筆者の表現の特徴や意図に気付いたり、新たな読みの視点に気付いたりするなどの効果が期待できる。

国語科の教科書に掲載されている教材を見ると、多くの場合、文章に対応する形で写真・絵図などの資料が効果的に使用されている。図表が文章の内容をより分かりやすく説明していたり、文章で表現しにくい部分を写真で表したりと、互いに補完し合って内容理解を助けていることが分かる。特に、合理的に筋道を立てて展開していく説明的な文章においては、資料が文章のどの部分と関連し、どのような意味をもっているかを考えることで、書き手の意図をより正確に読み取ることができ、文章の構成や展開をとらえる手がかりになると考える。説明的な文章を読む過程において、文章がどのように意味段落を形成し、意味段落が文章全体から見るとどのような役割をもっているかを考えたり、別の表現と比べて効果の違いを考えたりするなど、情報を比較・関連させながら内容をとらえる学習を進めることで、文章の構成や展開をとらえて読む力が高まると考える。

### 3 「自作テキストを作成する活動」について

自作テキストを作成する活動とは、生徒自身が文章や写真・絵図など様々な資料を組み合わせる構成を考え、テキストの形にまとめる活動である。この場合のテキストとは、生徒たちの身近にあるものとして学習用教科書をイメージし、説明的な文章を学習するための教材文を作成する活動を行うことにした。ただし、読むことを中心に行いたいので、文章を実際に書くのではなく既存の説明的な文章を分解して再構成することにした。

この活動を行うに当たって、基礎資料、絵図資料、文章資料の三種類を用意した。基礎資料は、筆者の考えを短くまとめた文章である。絵図資料は、文章資料に関連した写真や絵図を集めたものである。文章資料は、筆者が書いた説明的な文章を形式段落ごとに分解したものである。

生徒は、文章資料や絵図資料を比較・関連させながら構成を考える過程で何度も資料を読み返し自分なりに資料の意味や価値を解釈していく。どの資料をどの位置にどのような形で挿入すると効果的な表現になるかを考えることで、資料のもつ情報に深く目を向けることになる。活動の中で行う意見交流で得た考えも参考にしながら、最終的に自分の考えた構成でテキストを作成し、文章や写真・絵図などの使用意図を説明し合うことで、構成や展開をとらえて読む力の向上が期待できる。

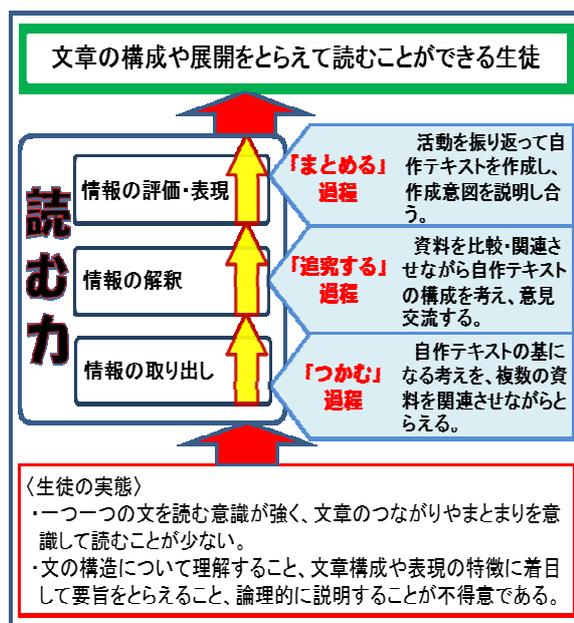


図2 研究構想図

## V 研究の計画と方法

### 1 実施計画

対象	研究協力校 中学校第3学年 52名
実践期間	平成23年10月11日～10月21日 6時間
単元名	「構成・展開をとらえて読む」 (教材名：オオカミを見る目)

### 2 抽出生徒

A	文章を読むこと自体嫌いではないが、要旨をまとめたり、文相互のつながりを考えたりすることは苦手で、文章が伝えようとしている内容を正確に理解できないことが多い。資料を比較・関連させる過程で鍵となる表現を見付け、情報を内容に分けて分類して並べ替え、その理由を説明することで、構成や展開をとらえて読む力を高めたい。
	読むことに関する関心が薄く、文章読解を行うと単純な誤りが多い。資料を比較・関連

B	させる過程で文章表現に着目して内容をとらえ、絵図との関連を考えて作成した自作テキストについて、構成理由を自分の言葉で明確に述べることで、構成や展開をとらえて読む力を高めたい。
---	---

### 3 検証計画

検証計画	検証の観点	検証の方法
見通し1	文章から取り出した情報と写真・絵図などから取り出した情報とを関連させて考えることは、自作テキストの基になる筆者の考えをとらえる上で有効であったか。	・活動状況の観察 ・ノートの記事
見通し2	文章と文章、文章と写真・絵図などの資料を比較・関連させながら自作テキストの構成を考え、意見交流することは、構成や展開に関する理解を深める上で有効であったか。	・活動状況の観察 ・発言の確認 ・テキストの内容
見通し3	構成を考え、意見交流したことを基に自作テキストを作成し、作成意図を説明し合うことは、構成や展開をとらえて読む力を高める上で有効であったか。	・テキストの内容 ・付箋紙への記述 ・アンケートの記事

### 4 単元の目標及び評価規準

#### (1) 単元の目標

段落ごとに分解した文章・絵図などの資料を比較・関連させながら、適切な文章表現や表現効果について考え、構成や展開をとらえて読む力を高める。

#### (2) 評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	言語に関する知識・理解・技能
○資料の内容に関心をもち、進んで資料の並べ替えを行い、構成をとらえようとしている。	○資料を比較・関連させながら構成や展開をとらえることで、文章理解を深めている。 ○構成や展開を考えて自作テキストを作成し、構成の意図や表現の効果について説明している。	○段落の役割や段落相互の関係を示す語句や指示する語句に着目し、文章のつながりを意識して読んでいる。

### 5 指導計画(全6時間)

	時	学習活動	研究上の手だて
つかむ	第1時	○学習の流れを確認する。 ・筆者の考えを基にして資料を組み合わせ、自作テキストを作成していくことを知る。 ・文章の構成について簡単に復習する。	○文章構成に関する既習事項(構成・展開、段落等)について確認し、これから行う学習についての見通しをもつ。
	第2時	○自作テキストの基となる筆者の考え方について理解する。 ・筆者の研究内容が載っている資料や、筆者が書いた本文以外の文章から筆者の立場や活動内容、考え方をとらえる。 ・文章と絵図などの資料を関連させながら考えることで筆者の考えを具体的にとらえる。	○筆者の考えが書かれている基礎資料と、関係する写真やグラフなど絵図資料を関連させながら考えることで、自作テキストの基となる筆者の考え方について、具体的にとらえる。
追究する	第3時	○文章資料を比較・関連させながら序論と結論をとらえ、絵図の配置について考える。 ・序論と結論にかかわる段落を文章資料から抜き出し、それぞれの場面に配置したい絵図を絵図資料の中から選択して理由を述べ合い、意見交流する。	○分解された文章資料の中から序論と結論にかかわる段落を抜き出すことで、文章構成の枠組みをつかむ。
	第4時	○資料を比較・関連させながら本論の内容をとらえ、絵図の配置について考える。 ・序論と結論を除いた11の文章資料を並べ替えて自分なりに構成した本論部分と、効果的な表現にするために配置した資料について考えを述べ合い意見交流する。	○分解された文章資料の中から序論と結論を除いた段落を比較・関連させながら本論の構成・展開を考える。
	第5時	○文章資料の順序と絵図資料の配置など構成を吟味し、自作テキストのレイアウトにつ	○友達の意見も参考にしながら、構成を見直すと共に、基となる考えに照らして再

	時	いて考える。 ・自分なりに考えた構成について、根拠や理由を述べ合い、意見交流する。	度読み直し、構成や展開に間違いはないか、また不自然な点がないかを確認する。
ま と め る	第 6 時	○これまでの活動を振り返り、構成や展開を考えて自作テキストを作成し、作成意図を説明し評価し合う。 ・作成した自作テキストを互いに交換し、文章構成や絵図資料の使い方について説明し合う。 ・自作テキストに書かれている文章表現の特徴や効果について評価する。	○台紙に文章資料と絵図資料とを貼り付けて自作テキストを作成し、友達同士で交換して文章構成や絵図資料の使い方の工夫などについて説明し合う。 ○文章そのものに目を向け、筆者の論理展開や表現の工夫など、参考にしたいところや手直したいところなどについてまとめる。

## VI 研究の結果と考察

### 1 文章から取り出した情報と、写真・絵図などの資料から取り出した情報とを関連させることで、自作テキストの基になる筆者の考えをとらえる活動の有効性について

#### (1) 結果

自作テキストを作成する活動を行うに当たって、筆者の考えが書かれた「筆者のメッセージ」という基礎資料（資料1）、内容に関係する写真・絵図・グラフ・新聞記事など16枚の絵図資料（資料2）、「オオカミを見る目」という、2500字程度、17の形式段落で構成される文章を分解した文章資料（資料3）を用意した。

分解した文章資料を再構成していくためには、基の文章がどのような意図で書かれ、どのような内容を読者に伝えようとして書かれたのか理解していなければならない。「つかむ」過程では、右の3種類の資料のうち、基礎資料と絵図資料の2種類を使い、それぞれから取り出した情報を関連させ、自作テキストの構成を考えていくための根拠となる筆者の考え方をとらえた。生徒は、文章から、「筆者は動物の生態を研究している学者である」「人と動物の共存をめざしている」「生態学を進めたいと考えている」などの内容を読み取り、カラー印刷された絵図資料からは、「自分たちの身の回りにいる野生動物」「野生動物の個体数の変化やその経緯」「動物に対する見方の違い」などの情報を読み取った。意見交流では、基礎資料から読み取ったこと、絵図資料から読み取ったこと、両方を結び付けて考えたことの三つの視点で意見を出し合った後、それを基に、筆者の考えとして各自ノートにまとめた。

基礎資料と絵図資料とを関連させて生徒たちがとらえた筆者の考えは、「動物の生態系に関すること」「動物と人間との共存に関すること」「人間の価値観に関すること」「自然環境の大切さに関すること」「オオカミのイメージに関すること」に分類することができ、自作テキストの構成を考えていく上でおおむね適切なものとなった。中に数名「時間が足りなかった」や「文章が難しかった」という理由で無記入の生徒もいた。

#### 資料1 基礎資料(抜粋)

**筆者のメッセージ**

(前略)

私は多くの人々の協力を得て、シカの頭数変動や植物への影響などについて息の長い研究をすることができました。その中で人と野生動物との共存という問題の重大さに気づき、保全生態学的な研究にも力を入れるようになりました。

(中略)

20世紀が野生動物の受難の時代だったとすれば、21世紀はその反省に立って、人間と野生動物の関係を少しはよいものにしなければなりません。そのために保全生態学は有力な視点や知見を提供してくれるはずなんです。

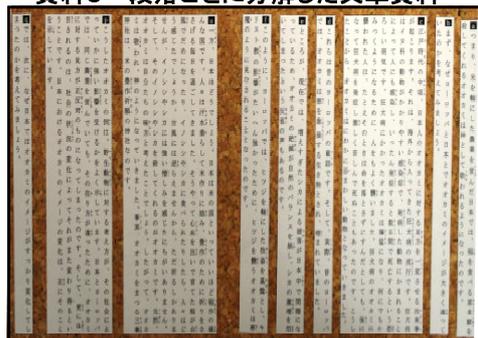
(中略)

また基礎的な生態学によって動物の生き方を記述することで、そのすばらしさ、おもしろさを解明することも保全の大きな力になります。私もそのような生態学を進めるために微力を尽くしたいと思っています。

#### 資料2 絵図資料の一部



#### 資料3 段落ごとに分解した文章資料



抽出生徒Aは、基礎資料から「人間と動物との関係をよいものにしたいという意見に賛成」という感想をもち、絵図資料からは「動物の写真が多いけど、田んぼとか神社とかもあってどんな関係があるのか意味不明」という感想をもった。これらを総合して、「動物の生き方と人間の関係」とまとめた。抽出生徒Bは、基礎資料から「人間と野生動物との関係をよくしていこうとしているのだと思う。人間の価値観や都合、時代によって野生動物の運命に大きな影響を与えているのだと思った」という感想をもち、絵図資料から「オオカミは人間にとって悪者としてとらえられていて印象はあまりよくない。シカが年々増加しているのはオオカミと関係がある」という感想をもち、これらを「人間と野生動物の共存」とまとめた。

## (2) 考察

生徒は、まず基礎資料を読んで筆者の立場や考えなど重要な部分に着目し、絵図資料から読み取れる具体的なイメージや情報と結び付けることによって筆者の考えをより明確に、具体的な形でとらえようとしていた。写真・絵図からの情報は、文章からの情報だけでは理解が難しい生徒にとっては文章を理解する上でのヒントとなり、文章からある程度の内容を読み取れた生徒にとっては、さらに視野を広げたり、理解を深めたりするのに役立つと考える。

意見交流では「文も絵も動物のことが多いので、動物関連の話だ」「この絵とこの文は関係がありそうだ」などの文章と絵図との関連を指摘する発言から徐々に発展して、「ニホンオオカミは絶滅したことを知っている」や、「シカやイノシシが増え、自分の家でも作物が荒らされて困る」のように、自分の知識や身の回りの出来事に関する発言も聞かれるようになり、人と動物に関する問題をより身近なものとしてとらえる様子が見られた。また、絵図資料の中の神社の写真や地球儀の写真など、文章との関係がとらえにくいものについても様々な読み取りがなされ、その中で、「オオカミは神様だったのではないか」や「地球全体で問題が起こっている」のように、この後読んでいく文章資料の内容につながっていくような言葉も聞かれるなど、自作テキストの作成に向けて有効な意見交流がなされたと考える。

以上のようなことから、文章から取り出した情報と写真・絵図などの資料から取り出した情報を関連させることは、自作テキストの基になる筆者の考えをとらえる上で有効だったと考える。

## 2 文章と文章、文章と写真・絵図などの資料を比較・関連させながら自作テキストの構成を考え、意見交流することの有効性について

### (1) 結果

「追究する」過程では、前述の3種類の資料のうち、主に文章資料と絵図資料とを使って、自作テキストの構成を考える活動を行った。まず、「つかむ」過程でとらえた筆者の考えを頭に置いて、形式段落ごとに分解されている17枚の文章資料を一枚ずつよく読み、書かれている内容を理解するようにした。次に構成全体の枠を決めるために序論と結論に当たる部分をとらえ、最後に本論の構成を考えた。文章資料はまとまりごとに付箋紙に貼り、まとめた理由と使いたい絵図資料の番号を記入することにした(資料4)。

冒頭の段落と終末の段落は、ほとんどの生徒が同じものを選んだので、それらの段落を核として、まず序論と結論を考えた。ややばらつきはあったものの、「西洋と日本のオオカミに対するイメージの違い」という内容の序論は約6割、「オオカミの例が意味するものと筆者の呼びかけ」という内容の結論は約7割の生徒がとらえられた。この段階で半数以上の生徒は文章全体を通して文章資料を並べていたので、〈最初の構成〉として記録した。序論に使われた絵図資料は、

資料4 構成を考える生徒の様子



ほとんどの生徒が「赤頭巾」と「神社と絵馬の写真」で、結論は「オオカミの顔の写真」「走るオオカミの絵」などが多かった。

序論と結論を確認した後、本論をとらえる活動を行った。その際、基本となるまとまりとして、「西洋におけるオオカミの見方」（資料5）「日本におけるオオカミの見方」「日本におけるオオカミの見方の変化」の三つの意味段落を想定して活動を進めた。すでに序論・結論と同時進行で本論を並べ替えていた多くの生徒は、三つか四つのまとまりに分けて付箋紙に貼り付け、理由を考えていた。ここでは〈確認後の構成〉として記録した。並べ替える作業が進まない生徒に対しては、二つの問題それぞれに対応する文を見付けること、接続語に着目してつながりを考えること、絵図資料と関連させてまとまりを考えることなど、構成や展開をとらえる上で効果的な方法についてアドバイスし、支援した。全員が本論の構成を終えたところで、自分で考えた構成とその理由、困ったところや悩んだところを伝え合う意見交流を行った。

抽出生徒Aは、序論と結論を正確にとらえることができず、文章の概略をまとめたような序論と結論になっていた。そのため、本論はつながりに無理がある段落同士を結び付けることになり、苦心していた。序論と結論を確認してから本論を見直すと二つのまとまりを正確にとらえることができた。抽出生徒Bは、序論と結論を正確にとらえ、本論もヨーロッパにおけるオオカミの見方まではうまく構成できたが、日本におけるオオカミの見方と見方の変化とが混同してしまい悩んでいた。意見交流の中で、文章の中に共通して出てくる表現に着目してつながりを考えるようアドバイスを受けて構成を変更していた。意見交流の後に修正した構成については〈交流後の構成〉として記録した。

## (2) 考察

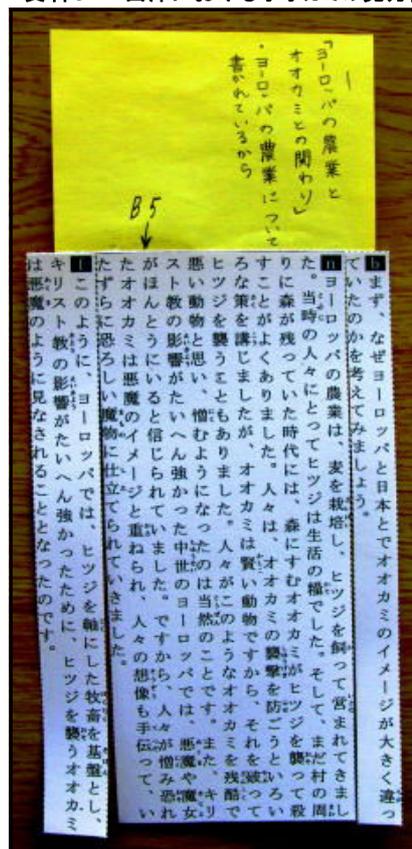
最初に冒頭と終末の段落をとらえるという目標で活動をスタートさせたが、ほとんどの生徒は文章全体を見通して文章資料を並べ替えようと試行錯誤していた。冒頭も終末も、全体の流れを見通した上でとらえるものであって、冒頭と終末の段落をとらえるという活動は、全体を見通す活動でもあったと言える。

生徒は集中して活動に取り組み、何度も文章資料を並べ替えていた。何度も並べ替えるということは、何度も文章を読むということである。何度も読んだ上で自分なりの構成を決めたということは、自分なりに文章を解釈したということである。付箋紙への書き込みを見ると、最初、「本論①」や「ヨーロッパのこと」などと書かれていたものが、徐々に「ヨーロッパの人たちにとってオオカミはどのような存在としてとらえられていたか」や「一つめの問題に対する答え」などの表現が書き加えられ、文章構成の理由が明確になっていったことが分かる。

冒頭と終末の段落は、呼びかけの表現やまとめの表現、接続語の使い方など、特徴的な表現が使われていたため見付けやすかったが、序論と結論の意味段落になると、どこで区切れればいいか迷う生徒が多かった。ある生徒から、「結論を見ると二つの答えが出ているので、二つの問題が提示されている部分は序論に入れるべきだ」という趣旨の意見が出されたので、全体で確認して序論に含めることとした。これも内容理解の一面を示すもので、明確な根拠を示して説明した例として、本論の構成を考えていく際の参考にした。

意見交流は活発に行われ、友達の意見を参考にしながら自分の構成を見直す様子が見られた。「友達の意見を聞いてなるほどと思った」「迷っているところを相談できてよかった」「新たに気付いたことがありとても参考になった」などの感想が多かったことから、効果的な意見交流が行われ

資料5 「西洋におけるオオカミの見方」



たことが分かる。迷っている部分も含めて、自分なりの考えをもった上で交流したことが活発な活動につながったと考える。自分で構成した本論に違和感がありながらも、どう直したらよいか分からない悩みを意見交流の場で友達に伝え、アドバイスを得て適切な構成に修正することができた生徒も多い。

このように、意見交流を経て構成を見直し、修正したところ、交流前「西洋におけるオオカミの見方」をとらえていた生徒が全体の69%であったのに対して交流後は92%に、同様に「日本におけるオオカミの見方」は48%から73%に、「日本におけるオオカミの見方の変化」は42%から58%にそれぞれ上昇し、想定したまとまりに近付いていったことが分かる。

意見交流は、適切な構成・展開に気付く上で効果があったと考える（図3）。

絵図資料について話し合ったグループでは「文に出てくるのならわざわざ絵を入れる必要はないのではないか」とか、「絵を入れることによって文章を強調できる」「文に書けないことを付け加えることができる」「イメージをふくらませることができる」といった絵図資料の効果的な使い方に関する意見が出された。絵図資料による表現の工夫は、構成や展開をとらえて読む力にかかわるので学級全体で共通理解し、自作テキストに写真・絵図を使用する際の注意点とした。

早く構成ができ上がった生徒の中には、文章資料の表現に満足せず、新たに付け足す文章を考えたり、別な表現に改めて効果を考えたりするなど、発展的な学習に取り組む生徒も出てきた。より深い読み取りが行われていたと言える。

以上のことから、文章と文章、文章と写真・絵図などの資料を比較・関連させながら自作テキストの構成を考え、意見交流することは、構成や展開に関する理解を深める上で有効であったと考える。

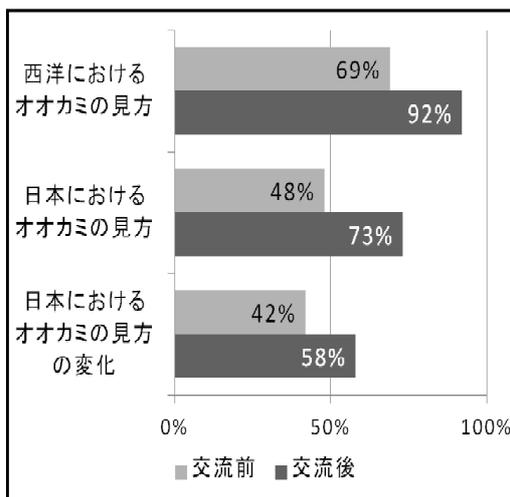


図3 三つのまとまりをとらえられた生徒の推移

### 3 構成を考え、意見交流したことを基にして自作テキストを作成し、作成意図を説明し合うことの有効性について

#### (1) 結果

「まとめる」過程では、これまでの学習に使用してきた文章資料・絵図資料を効果的に使い、台紙に貼り付けて自作テキストを完成させた。完成した生徒は友達と交換して作成意図を説明し合う活動を行った。

「冒頭」「二つの疑問」「一つめの内容」「二つめの内容」「終末」という骨格となる段落の位置関係（資料7）がとらえられていることを評価規準として生徒たちの自作テキストを見ると、90%の生徒はとらえることができていた。その内訳は、基の文章と同じ構成にした生徒が31%、基の文章と違う部分はあるが文脈からみて許容できる範囲にある生徒が40%、修正の必要はあるものの骨格となる段落の位置関係はとらえられている生徒が19%、骨格となる段落の順序が違っていた生徒が10%であった。

#### 資料7 骨格となる段落の位置関係

##### 「冒頭」

皆さんは、オオカミに対してどのようなイメージを持っていますか。（中略）童話の影響を受けて、オオカミは賢くて悪い動物だと感じる人もいるかもしれません。

##### 「二つの疑問」

ここで二つの疑問が生じます。オオカミという同じ動物に対して、ヨーロッパと日本とで、こんなにも見方が違っていたのはなぜでしょうか。また、（中略）同じ日本で、昔と今とで、オオカミのイメージが変わってしまったのはなぜでしょうか。

##### 「一つめの内容」

まず、なぜヨーロッパと日本とでオオカミのイメージが大きく違っていたのかを考えてみましょう。

##### 「二つめの内容」

では、次に、なぜ日本ではオオカミのイメージがすっかり変化してしまったのかを考えてみましょう。

##### 「終末」

このように、人の考えや行いは、置かれた社会の状況によって異なりもするし、また変化もし得るのだということを、心に留めておいてください。

絵図の使用に関しては、使用枚数の指定をしなかったため、多い生徒は12枚、少ない生徒は4枚と差があり、平均使用枚数は7枚であった。

作成意図の説明は、理由を書き込んだ付箋紙の記述を基にして、文章構成と絵図使用の理由を説明し合うこととし、二人組を基本として行った(資料8)。

抽出生徒Aは、2カ所修正の必要はあるものの、構成の骨格はとらえることができ、自信のある部分を中心に説明を行っていた。絵図は5枚使用し、それぞれ文章のまとまりに対応させて貼ってあるが、「赤頭巾が例に出てくるから」とか「三峯神社が話題に出てくるから」といった理由で、その効果を説明するまでには至らなかった。学習後の感想には「写真をうまく使えるとよかった。自作テキスト作りは、写真や絵など、どこに何を貼るかや、文章はつながっているかなど、たくさんのことを考える学習でとても大変だった。今までにないくらいたくさん文章を読んだ」と書いていた。

抽出生徒Bは、基の文章と違う部分はあるが、文脈からみて許容できる範囲で構成ができた。意見交流の際に得たアドバイスを参考にしながら構成についての説明を行うことができた。絵図は6枚使い、「神社で神としてまつられている証拠を示した」や「オオカミのイメージを悪化させたことを言うために狼男のような絵を入れた」というように、使用意図や効果を自分の言葉で説明することができた。学習後の感想には、「この文章は例えがうまく使われていた。結論をもう少ししっかり書いてほしかった。文章の順番で意味がだいぶ変わるので接続語や段落の関係に注意していきたい。文章の展開や構成を考えるときは、最終的に訴えたいことを知り、話の筋道をしっかりとらえて読んでいけばいいと思った」と書いていた。

## (2) 考察

自作テキストが完成するまでの活動を振り返って、各段階での骨格となる段落をとらえた生徒の推移をまとめると右のようになる(図4)。最初の構成の段階でとらえられた生徒は50%であった。17に分解された段落を初めて読んだ段階での構成なので、最後まで完成しない生徒や漠然とした印象で並べている生徒も多かった。冒頭と終末という枠を確認した後は、70%の生徒が文章の基準となる段落の位置関係をとらえることができた。序論と結論を読むことで、文章の概略と話題の順序に気付いたものと考えられる。二つの疑問が書かれた段落に着目し、疑問に答える形で展開をとらえていった生徒や、キーワードに着目して組み合わせを考えている生徒が多かった。ある一つの段落の位置についてずっと考え、試行錯誤している生徒も見られた。自分なりの考えをもち、グループ内で意見交流した後の構成を見ると、基準となる段落をとらえられた生徒が85%に伸びている。意見交流を行う過程で説得力のある意見を聞いたり、アドバイスし合ったりして適切な構成をとらえていったと考えられる。交流後、自作テキストの構成段階でもまだ修正した生徒がいた。このことは、最終的に読み直すことで、よりよい構成に気付いたからだと考える。このような構成の推移を見ても、資料を比較・関連させながら自作テキストの構成を考える過程で、読む力が高まった様子が分かる。

## 資料8 説明する際の自作テキスト

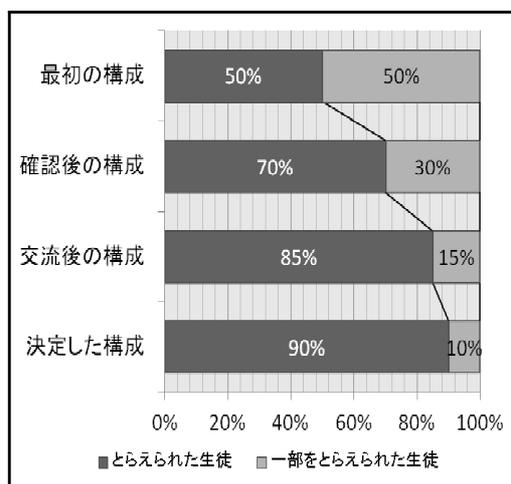
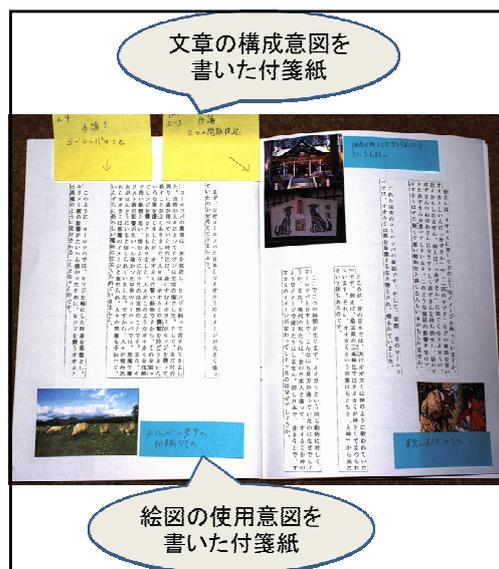


図4 骨格となる段落をとらえられた生徒の推移

今回のような学習では、正しい順序に構成することができたということはもちろん重要だが、どうしてそのような構成にしたのかという理由や根拠を説明する力が求められる。生徒たちは構成の理由や根拠を書いた付箋紙を基に、交流で得た考えなどを付け加えながら文章構成の意図について説明していた。共通するキーワードを基にまとまりを作ったこと、接続語に着目して前後関係を決めたこと、意味段落で区切りながらページ割り振りを行ったことなど、生徒自身の言葉で具体的に説明できたことは、構成や展開をとらえて読む力の高まりとしてとらえることができる。中には、表現効果を上げるために文を付け加えたり、違う表現に置き換えて考えるような生徒もいた(資料9)。現在の表現効果を評価し、筆者の意図を考えてさらに表現効果を上げようとするものであり、構成や展開をとらえて読む力が高まった姿である。

絵図の使用についても同様で、使用意図や効果を明確に説明できることが、構成や展開をとらえて読む力を表している。ほぼ全員の生徒が「赤頭巾の絵」を選んだが、その理由を見ると、「だれもが知っている絵を最初の場面に入れることで、文章の世界に入りやすくなるから」「この絵にあるオオカミも、文章中にあるように悪そうな様子で書かれていて、文の意味を強調しているから」などのように必要性を明確にした表現や、効果を説明した表現が増えてきた。「この文章を詳しく説明するために入れている」や「この絵をここに入れることでこのような効果がある」といった具体的な理由を述べられるということは、文章以外の資料からの情報と文章の情報とを結び付けて表現効果を上げようとするものであり、構成や展開をとらえて読む力が高まった姿であると言える。

以上のようなことから、構成を考え、意見交流した活動を振り返って自作テキストを作成し、作成意図を説明し合うことは、構成や展開をとらえて読む力を高める上で有効だったと考える。

#### 資料9 基の文章に書き加えた表現

(最終段落の基の文)

このように、人の考えや行いは、置かれた社会の状況によって異なりもするし、また変化もし得るのだということを、心に留めておいてください。

(下線は生徒が書き加えた文)

人間は利益のあるものは守り、害を与えるものは排除してきました。このように、人の考えや行いは、置かれた社会の状況によって異なりもするし、また変化もし得るのです。私たち人間は、ニホンオオカミの絶滅から学び、生態系全体のことを考えた行動をしていくべきなのです。

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

- 文章・写真・絵図などの資料を比較・関連させながら読み取る活動を行うことで、表現の特徴やその意図、効果に気付くことができ、意見交流を行うことで内容理解が深まった。
- 資料を比較・関連させながら自作テキストを作成する活動を行うことで、適切な文章表現や表現効果について考えることができ、文章の構成や展開をとらえて読む力を高めることができた。

### 2 課題

- どのような資料を選ぶかによって、生徒の活動への取組や学習効果が変わってくる。生徒の実態に合った内容・構成・表現の特徴をもった資料を選定することが必要である。
- 自作テキストを作成し、作成意図を説明し合う学習を行う際に、この活動を通してどのような力を身に付けるのかを明確にし、生徒にも理解させておくことが大切である。

#### <参考文献>

- ・河野 庸介、岡野 健 編著 『中学校国語科新授業モデル 読むこと編』 明治図書 (2011)
  - ・中学校国語科用 文部科学省検定済教科書 『新しい国語 1』 東京書籍 (2012)
- (担当指導主事 小島 理宏)